

# ユリカモメの集団ねぐらにおける幼鳥の位置

平田和彦（北大・水産・海洋生物生産科学科）

京都府宇治市の木幡池南池には，ユリカモメの小規模な集団ねぐらがある．本種のねぐらは大規模であることが多く，例えば近畿地方で越冬するユリカモメのねぐらとして，琵琶湖や大阪湾が知られている．木幡池南池の開水面積はこれらに比べて極めて小さく，約5aしかない．そのため，ねぐら全体を観察することができる．

木幡池南池のねぐらにおいて，2005年12月30日から2006年1月4日までの毎日と1月7日の夕方に，ねぐら内における各個体の位置がどのように決まっているのかを明らかにするために，各個体の位置について，齢（成幼）に注目して調査を行なった．

調査地のねぐらでは，群れる個体と群れない個体があったが，前者に比べて後者の幼鳥率が有意に高かった．群れる個体は，群れない個体に囲まれるように位置していた．さらに，ねぐらでは毎夕アヒルに給餌する人がいて，その給餌に一部のユリカモメが集まったが，給餌に集まらない個体に比べて集まる個体の幼鳥率が有意に高かった．給餌を受けた個体は泳いで群れに戻るか，そのまま給餌場所付近に留まることが多かった．

では，なぜ群外の幼鳥率が高いのだろうか．一つの可能性として，給餌を受けた個体（幼鳥率が高い）が採食場所付近（群れの外側）に留まっていたことが考えられた．

以上の調査結果について，中間報告として発表する．